

## 青い栞

「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」 OP

なん  
何ページもついやして 綴られた僕らの気分  
どうしてか 一行の 空白をうめられない

お ばな しおり きみ ころ つか す じてんしゃ  
押し花の栞はさんで 君と転がす使い捨ての自転車  
わす れんが つ あ  
忘れかけの煉瓦を 積み上げてはくずした

イコールへとひきずられていく こわいくらいに 青い空を  
あそ 遊ぶにつかれた僕らは きっと 思い出すこともない

そうやって今は僕の方へ 押しつける 陽射しの束  
まだ二人はすぐそこにいるのに「どうかまた会えますように」なんて  
どうかしてるみたい

いち  
一ページめくるてのひら くちびるで結んだミサंगा  
ねえ 今朝も 変わらない 今日で 雨ふれば 電話もできるよ  
そうやって今は君の方へ (いつのまにか切れたミサंगा)  
お 押しつける 僕の 優しさを (でもなぜか 言えない ままだよ)  
ほんとう  
本当どうかしてるみたい

ひと  
どれか一つをえらべば 音をたてて壊れる  
それが 愛だなんて おどけて 君は笑ってた

ま あ まち し ねむ  
間に合ってよかった 街は知らないふりをきめて眠った  
わす れんが つ あ ばしよ  
忘れかけの煉瓦を 積み上げた場所に ゆこう

うみ みわた さか あお そら  
海を見渡す坂を かけのぼって こわいくらいに 青い空と  
みぎて ひだりて きみ  
右手にサイダー 左手はずっと君をさがしている

そうやって 塞いだ両の手で 抱きしめている 春の風  
まだ時間は僕らのもので「いつか、忘れてしまう 今日だね」なんて  
い  
言わないでほしいよ

そうやって“今”は僕の方へ問いつめることもなくて  
まだ二人はすぐそこにいるだろう「そうだ、空白を埋める言葉は」  
いや、まだ言わないでおこう

一ページめくるてのひら くちびるでほどいたミサンガ  
始発電車まばらな幸せ ねえ、今日も変わらない今日だ

本当どうかしてるみたい